

「抗体カクテル」手応え

県内で30人以上治療

抗体カクテル療法は、厚用した県立三好病院(三好市)の住友正幸院長は「抗薬を特例承認した。症状の軽い人にも使える国内で初めての新型コロナウイルス治療薬となる。県内では県立海部病院(牟岐町)が初めて実施し、コロナ患者の入院を受け入れる複数の医療機関が取り入れている。

医師は効果に手応えを感じている。海部病院の浦岡秀行院長は「まだ6、7人と事例は少ないものの、投与後に楽になったという人もいる。重症化を予防する観点で非常に良い薬だ」と話した。これまでに9人に使

重症化・重篤副作用なし

新型コロナウイルス患者の重症化を防ぐ効果が期待される新しい治療法「抗体カクテル療法」が、県内の医療機関で8月上旬から活用されている。県や医療関係者によると、これまでに県内で30人以上が治療を受けていずれも重症化していない。重篤な副作用も報告されていないという。発症7日以内と速やかな投与が推奨されているため、医療関係者は「基礎疾患があるなどリスクの高い人は、新型コロナウイルス感染が疑われる症状があれば躊躇わずに検査を受けてほしい」と呼び掛けている。



「抗体カクテル療法」のイメージ

使用対象	酸素投与が必要ない軽症、中等症患者で50歳以上や肥満、高血圧、呼吸器系疾患など重症化リスクのある人
効果	入院や死亡のリスクが70%低下(海外の臨床試験)
副作用	アナフィラキシーなどのアレルギー反応、発熱、悪寒、吐き気など

※投与そのものは30分程度で終了

一方、投与した後に発熱したりアレルギー反応が出たりする可能性もあり、住友正幸院長は「医療機関での経過観察が欠かせない」と注意を挙げた。薬の確保と患者への迅速な対応が鍵となる。薬は海外製で世界中から需要があり、日本への供給量は限られている。

「コロナの抗体カクテル療法 スイスと米国の製薬会社が開発し、国内では中外製薬が「ロナプリーブ」の商品名で販売する。「カシリビマブ」と「イムデビマブ」と呼ばれる2種類の抗体医薬品を混ぜて点滴する。ウイルスが人間の細胞に結合するのを防ぎ、体内でのウイルスの増殖を抑える。トランプ前米大統領が投与を受けたことで知られる。

れている。このため一般に流通しておらず、医療機関は必要になるたびに国に発注する。早ければ翌日に届くものの、患者の受診が遅れれば効果が見込める発症7日以内に投与できない恐れがある。

徳島大学病院感染制御部部長の東桃代医師は、発症から検査、入院までには数日かかるとし、「投与のタイミングを逸しないために早期の診断が大事。症状があれば仕事を切り上げてでも早く受診してほしい」と言う。また、感染者の急増で病床が逼迫し、抗体カクテル療法を必要とする患者が入院できなくなる事態も想定して、治療体制づくりを進めるよう県に求めている。

(秋月悠)